

# 鹿児島県における性教育について

## その1. 性犯罪と性教育の現状

西種子田 弘 芳

### The Study of Sex Education in Kagoshima

#### No. 1 Present Conditions of Sexual Crimes and Sex Education in Kagoshima

Hiroyoshi NISHITANEDA

### は じ め に

今日の社会の発展はめざましいものがあるが、そのなかでも特に情報機関の発展とその情報量の膨大さには驚くべきものがある。特に性情報については氾濫しているという表現がもっとも適切であるかのような状況にある。そのためこれまで性の問題はできるだけ避けて通ってきた学校や家庭のなかへ、そうした情報は容赦なく侵入している。しかし興味本位で営利主義的な性情報が、人間としての精神的なふれあいを無視したかたちで無責任に投げだされているようだ。善シ悪シの判断をする間もなく、子どもたちの中へ浸透しているため、多くの重大な影響が心配され、かつすでに多くの問題がおきている。

一方、生活水準の向上は、子どもたちの体位に影響し、鹿児島県においても全国的な水準とまではいかなくても、ここ数年来急激な伸びがみられ、性的成熟も早期化促進化の傾向にある<sup>1)2)</sup>。しかし、子どもたちの特に思春期の心身のアンバランスは人生のなかでも特徴的であることはよく知られており、身体的発育や成熟と精神的発達とは必ずしも一致しない。身体上の大きな変化は正常な発育発達と成熟への現象であるのに、それを不安に感じたり、自己嫌悪に陥ったりで精神的動揺を示す不安定な時期でもある<sup>3)</sup>。また、異性や性に関する事柄に急激に興味や関心を示す時期でもある<sup>4)5)6)7)</sup>。今日の性刺激・性情報からこうした感受性の高い子どもたちの目を覆うことはほとんど不可能である。不可能であるとすればなんらかの形で正しい知識を与え、自主的に問題を意識し、実践する力を子どもたちに持たせる以外に方法はないのではないか。こうした状況の中では学校はそのための中核的存在とならざるを得ない。従って学校における性教育への取りくみは重要かつ急務を要する時期にきていると考える。

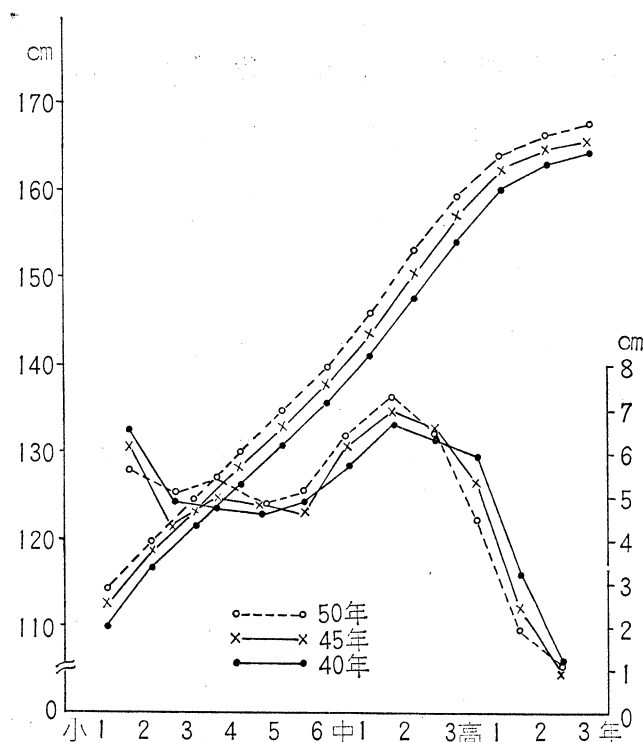


図-1 鹿児島県下学童の平均身長及び発育率の推移 (男子)

表 I 初潮発来平均年令

	甲 東 中	榕 城 中	串木野中	羽 島 中
46年度生	13才0月	13才1月	12才10月	13才1月
49年度生	12才6月	12才6月	12才3月	12才5月

## 研究の目的

学校における性教育の必要性は十分に理解されているように思うが、筆者はこうした性情報氾濫の中でも、正しい性知識を選択できる力を養い、生物学的医学的知識だけでなく精神的社会的存在としての性に対する理解をより深め、直面するであろう問題に対して、直観的感情的に処理しないで、意識的実践的に対応できる力を子どもたちに持たせることを性教育のなかにも期待したい。

しかし、実際問題として教育現場でどのような内容をどのように扱うべきかはなかなか困難な問題である。そこで今回は、今後の性教育を進めていくうえでの基礎資料とするために、鹿児島県下における青少年性犯罪の現状とその背景を検討し、加えて学校現場における性教育の実状と、性教育に対する教師の意識の実態について調査を実施した。というのも具体的な教材を作成し、学習が展開されるためには、その問題や関心がより具体的に把握されなければ、効果的実践的な性教育を進めることはできないと考えるからである。

以下ここに結果の概要を報告するものである。

## 調査対象と調査方法

### I. 性犯罪の現状とその背景

鹿児島県警察本部保安部防犯課が毎年発行している「少年非行」の43年度版から50年度版<sup>13)</sup>までの8年間の資料をもとに分析・検討した。また犯罪者少年等の背景については、同資料に掲載された「おもな少年非行の補導事例」のなかから性に関する40事例を細かく検討した。

なお、この資料において使用した用語は、「少年非行」の記載にならって次のように規定した。

- 少年 ; 20才未満の者をいう。
- 犯罪少年; 14才以上の少年で刑法犯を犯した者をいう。
- 触法少年; 14才未満の少年で刑法犯にふれる行為をした者をいう。
- ぐ犯・不良行為少年; ぐ犯少年(少年の性格・行為から判断して、将来罪を犯し、または刑罰法令に触れる行為をするおそれのある少年)および不良行為少年(犯罪少年, 触法少年およびぐ犯少年には該当しないが、飲酒・喫煙等の行為をし、自己または他人の徳性を害している少年)をいう。

### II.-①学校現場における性教育の実践実態

#### ㊥性教育に対する教師の意識の実態

いずれも表Ⅱに示すように鹿児島県下14市の公立の小・中・高校の性教育担当者に回答を依頼した。しかし、残念ながら回収率はきわめて低いものとなった。

表Ⅱ

対 象 校				回 収 率 (%)	
小	学	校	190校	67校	(35.3)
中	学	校	87校	27校	(31.0)
高		校	84校	27校	(32.1)
計			361校	121校	(33.5)

調査は次に示すような「性教育に関するアンケート」用紙を筆者の研究室で作成し、必要事項について選択法または記述法により記入してもらった。なお、結果の分析は項目別に百分率で表わしたが、複数回答となったため、合計は100%にはならない。

### 性教育に関するアンケート

学校名

1. 貴校では、性教育は主として誰が行なっていますか。

イ, 学級担任                      ロ, 教科担任 (具体的に )

ハ、養護教諭                      ニ、校医                      ホ、その他 (                      )

2. 性教育のねらいは何だと思いますか。

また、教育の中で、性教育をとりあげる必要性についてどう思いますか。

3. 貴校では、いま性教育についてどんな実践を行なっていますか。

(1) 性教育を行なう時間      年間約                      時間

(2) 内容 (該当するものは全部○で囲んでください。)

イ、男女のからだのしくみ	ロ、思春期	ハ、男らしさと女らしさ
ニ、男女の相互協力について	ホ、受 精	ヘ、初潮指導
ト、精通現象	チ、性道徳	リ、性被害
ヌ、遺 伝	ル、清潔観と基本的生活習慣	ヲ、からだの成長について
ワ、男女の役割と分担	カ、第二性徴	ヨ、男女交際について
タ、男女の理想像	レ、友情と恋愛のちがい	ソ、結 婚
ツ、その他		

(3) 性教育の場面

イ、学級指導	ロ、道 徳	ハ、特別な時間	ニ、個別指導
ホ、教科の中で	ヘ、その他 (                      )		

(4) 性教育の指導方法

イ、女子だけ	ロ、男子だけ	ハ、男女いっせい	ニ、内容については男女別
ホ、その他			

(5) 用いている教材

イ、教科書のみ	ロ、スライド併用	ハ、その他の書物の併用
ニ、その他		

(6) 貴校では、性教育に関し、何か特別な活動を行なっていますか。

イ、行なっている	ロ、行なっていない
----------	-----------

※ イ、の場合、どんな活動ですか。

4. 性教育について、いちばん困っている問題事例は何ですか。

5. 性教育に取り組むにあたっての最大の障害は何だと思いますか。

6. その障害はどのようにすれば克服できると思いますか。現状での糸口は？

また、実際に解決策・解決例がありましたらご記入ください。

7. 性教育について何か感じていることがありましたらご記入下さい。

※ 該当するものに○をして下さい。

8. 学校における性教育の必要性について

イ、必要である	ロ、必要でない	ハ、わからない
---------	---------	---------

(1) 必要である理由

- イ、性の悩み、不安解消のため                      ロ、性はん濫、性の誘惑が多い  
ハ、共学下で男女交際の機会が多い              ニ、親からの要望  
ホ、その他（                      ）
- (2) 必要でない理由
- イ、本来家庭教育だから              ロ、よい指導者がいない              ハ、本能的にわかる  
ニ、刺激を与える                      ホ、学校は学習指導のみに専念すべき  
ヘ、個人差大きく、いっせい指導困難              ト、その他（                      ）
9. 学校における性教育は誰が指導すべきと思いますか。
- イ、学級担任                      ロ、教科担任                      ハ、養護教諭                      ニ、校 医  
ホ、その他（                      ）
10. 性教育の場面はどこが適当だと思いますか。
- イ、学級指導で                      ロ、道徳で                      ハ、特別の時間に                      ニ、個別指導  
ホ、教科の中で                      ヘ、その他（                      ）
11. 性教育の場として、どこが適当だと思いますか。
- イ、家庭教育                      ロ、学校教育                      ハ、社会教育  
ニ、学校・家庭・社会教育で
12. 学校の性教育の内容と思われるもの
- イ、男女のからだのしくみ                      ロ、思春期                      ハ、男らしさと女らしさ  
ニ、男女の相互協力について                      ホ、受精について                      ヘ、初潮指導  
ト、精通現象                      チ、性道徳                      リ、性被害  
ヌ、遺伝子                      ル、清潔観と基本的生活習慣                      ヲ、からだの成長について  
ワ、男女の役割と分担                      カ、第二性徴                      ヨ、男女交際について  
タ、男女の理想像                      レ、友情と恋愛のちがい                      ソ、結 婚  
ツ、その他（                      ）
13. 学校の性教育はどれを主とすべきですか。
- イ、身体の清潔習慣                      ロ、身体の成長のようす                      ハ、男女の特性  
ニ、男女の協力態度                      ホ、家庭生活の理解                      ヘ、正しい男女交際のあり方  
ト、男女の人間関係のあり方                      チ、性生理  
リ、性に対するあやまちから守る教育                      ヌ、性に対する自制心  
ル、将来の結婚                      ヲ、その他（                      ）
14. 学校で性生理を教える場合、どの内容を含むべきだと思いますか。
- イ、性犯罪                      ロ、売 春                      ハ、ペッティング                      ニ、性 交  
ホ、自 慰                      ヘ、性ホルモン                      ト、脳下垂体                      チ、排卵  
リ、精 巢                      ヌ、卵 巢                      ル、夢 精                      ヲ、射 精

ワ、月 経                      カ、生理痛                      ヨ、避 任                      タ、中 絶  
 レ、妊 娠                      ソ、出 産                      ツ、その他（                      ）

15. 学校において、性教育を実施するとき予想される困難点は何だと思われますか。

イ、必要性感じるが、指導むずかしい      ロ、教育課程の位置づけがない  
 ハ、児童の個人差大                              ニ、いっせい指導、個別指導の組み合わせがむずかしい  
 ホ、内容の教師共通理解むずかしい      ヘ、指導の時間的余裕がない  
 ト、教師にも適・不適がある                      チ、指導限界不明  
 リ、指導資料、教材が乏しい                      ヌ、おしつけ、こじつけになりやすい  
 ル、家庭との連絡をとりにくい                      ヲ、その他（                      ）

御協力ありがとうございました。

## 調査結果と考察

### I. 性犯罪の実状とその背景

「最近の県下における少年非行は、量的には昭和47年から増加の一途をたどっている。内容的には、中・高校生徒の非行の増加、非行の集団化、不純異性交遊等の性の遊戯化、あるいは普通家庭の少年非行の増加などが大勢を占めている」と、県警防犯課少年課発行の「少年非行」では述べている。

このような少年の非行件数（犯罪件数）の増加は、逆に被害件数の増加をも暗示するものである。

そこでここでは、県下における犯罪および被害内容の分析・解明を試みることによって、性犯罪の未然の防止対策や児童生徒に対する指導への重要な糧を得ることと、そうした青少年をとりまく状況や背景を明らかにし、より広い意味での性教育に応用する基礎資料を得るために検討したものである。

#### ① ぐ犯行為及び犯罪件数

Ⅲ表は、「少年非行」のなかから、性に関係する犯罪行為等の件数を取りあげたものである。

この表から云えることは、不純異性交遊が次第に増加していること、そしてそのなかで女子少年の件数が年々増加傾向にあること、また、犯罪としての強姦やわいせつ行為が次第に低年齢化し、中・高校生に多くなっていることが注目される点であろう。

#### ② 犯罪の原因・動機

次の第Ⅳ表は昭和43年から46年にかけて強姦およびわいせつ行為を犯したものの原因・動機を調べたものである。

彼らの犯行の直接の動機づけとなったものは、映画やテレビ等の裸体像や性行為描写等を中心とする視的感覚刺激がほとんどである。

次いで、交友との雑談（わい談）や交友に誘われるままとかそそのかされてが多く、なんとなくとか好気心からが続いている。

表Ⅲ 鹿児島県下における最近の少年の性関係ぐ犯行為、犯罪行為件数

年度		43	44	45	46	47	48	49	50
犯罪項目									
不純異性交遊		203 (92)	178 (74)	214(100)	180 (94)	173 (88)	176 (81)	266(115)	324(138)
学 職 別 状 況	小 学 校						4 ( 2)		
	中 学 校	23 (17)	14 ( 7)	29 (18)	25 (18)	31 (20)	30 (19)	36 (24)	32 (22)
	高 校	91 (35)	66 (27)	106 (41)	68 (29)	71 (29)	72 (33)	102 (36)	153 (59)
	大 学	2	3 ( 1)	5 ( 1)	4 ( 2)	4 ( 2)	7 ( 2)	8 ( 6)	8 ( 2)
	各種学校 その他		3 ( 2)	4 ( 3)	2 ( 2)	1	5 ( 4)	2 ( 1)	6 ( 2)
	有 職 者	50 (22)	56 (20)	44 (25)	50 (31)	38 (17)	39 (17)	84 (36)	79 (32)
無 職 者		37 (18)	36 (17)	26 (12)	31 (12)	28 (20)	19 ( 5)	34 (12)	46 (21)
強 姦		55	40	33	36	20	42	31	37
わいせつ (但し48年 以後風俗 犯に含む)		30 ( 1)	12	33	31	15	31 ( 1)	17	11
		強 風	強 風	強 風	強 風	強 風	強 風	強 風	強 風
学 職 別 状 況	小 学 校			1		1			
	中 学 校	4	6	5	2	5	13	7	17
	高 校	17	15	10	4	7	12	13	6
	大 学								11
	各種学校 その他		1				1		1
	有 職 者	23	5	19	4	18	3	14	3
無 職 者		11	3	6	1	3		3	1
触 法				1		7		6	
							2		2
								1	1
									1

( ) は女子少年 強; 強姦 風; 風俗犯

表Ⅳ 原因動機別 (43年~46年)

動 原 機 因 別	総 数	映 刺 画 激 を 見 て れ	テ レ ビ 激 を 見 て れ	雑 誌 見 て 刺 激 な ど を れ	お 見 て 刺 激 な ど の 行 為 を れ	わ い た ん を 聞 い れ	異 性 の 服 装 に れ	好 気 心 ・ で き 心	交 さ そ 友 わ れ に て	そ の 他	年 度
強 姦	55	2		6	2	6	8	7	12	12	43
わいせつ	30			4		6	5		3	12	
強 姦	40	1	4	8		5	2	6	10	4	44
わいせつ	12	2		3		1	1	2	2	1	
強 姦	33	2	2	3	3	1		4	8	10	45
わいせつ	33	3	1	6	1		2	9	3	8	
強 姦	36	3	1			3		7	13	9	46
わいせつ	28	1	1	9	1	3		6	3	4	

こうした犯罪行為をなした少年たちの背景に劣悪で有害となりうる情報が広くはびこり、それが直接的にあるいは深層的に子どもたちの心の奥深くまで蝕んでいるのではないだろうか。困みに昭和44年から昭和50年度までの鹿児島県における有害映画と有害文書の指定件数とそれに対する少年の補導件数を第V表に掲げてみた。

表V 有害文書等の指定と青少年補導状況

年 度	44	45	46	47	48	49	50
有 害 映 画	161	205	173	276	244	237	267
／ 文 書	321	247	344	344	310	481	683
補 導		37	38	44	23	75	21

有害映画や有害文書等は毎年増加の傾向にあり、補導された青少年の数も増加傾向にある。それでも補導された青少年は氷山の一角であろう。これらのものが直接的間接的に全ての子どもたちに影響していることは疑う余地のないところである。大人たちには自由に鑑賞し楽しんでいるものが、なぜ子どもたちにはできないのかという反抗心や疑惑あるいは好気心はより助長されるであろうし、有害指定として閉めだしをしながら、実際上は名目だけで派手な、これ見よがしのものが、店頭や街頭に氾濫しているという矛盾さも、子どもたちには心よく思われたいのは当然ではなかろうか。大人はよく思想の自由や表現の自由を強調して、こうしたものに対する規制や取締りに反対するけれども、子どもたちにも健全な環境の中で住む権利はあるはずである。子どもたちの自由で健全な学習や発達を阻害してしまう環境を作りだすことの方がより危険であると云わなければならない。そのためには大人のあまりにも身勝手な自由さも、子どもの心身の健全な発達を保障する立場から、一定程度規制することも已むを得ないのではなかろうか。

#### ④被害の場所調べ

表VIは昭和45年と昭和46年度におきた少年犯罪のうち、強姦とわいせつ行為がなされた場所である。

表VI 性犯罪の被害場所調べ

年 度	場 所 罪 種 別	総 数	屋 内						屋 外								
			被 疑 者 宅	被 害 者 宅	旅 館・ モ テ ル 等	空 屋 等	そ の 他	計	公 園	山 林	海 岸	自 動 車 内	田 ・ 畑	道 路	学 校	そ の 他	計
45	総 数	66	6	3	1	1	8	19	3	10	2	7	2	17		6	47
	強 姦	31	2	2	1	1	2	8	2	5	1	7	1	6		1	23
	わいせつ	35	4	1			6	11	1	5	1		1	11		5	24
46	総 数	53	4	2	2	1	2	11	4	12	2	3	2	15	3	1	42
	強 姦	21	2			1		8		4	2	3	2	6	1		18
	わいせつ	32	2	2	2		2	3	4	8				9	2	1	24



このなかで注目されるのは、昭和45年頃から自動車による犯罪例が次第に増加してきたことである。自家用車の増加とその普及率の拡大は青少年にも簡単にとり入れられた。その便利さとスピード性および個室化された空間性と秘密性は、孤独を好む青少年のあこがれとなっている。従って逆にそのことが犯罪を生む道具ともなり得ることも示唆している。

### ㊦性犯罪少年の背景

表Ⅶは昭和43年から昭和50年までの「少年非行」のなかに掲載された40件の犯罪例を、複数犯行と単独犯行とに分類し、そうした青少年の背景を明らかにするために検討したものである。

表Ⅶ 性犯罪少年の背景

	犯 行 人 数			複 数		単 独	
	件 数			23(不純異性交遊を含む)		17	
被害者	知っている人	年 同 年 不	下 配 上 明	10	3	5	1 4
					2		
	知らない人	年 同 年 不	下 配 上 明		2		
					2		
記 入 な し			9		5		
犯 行 場 面	誘い出して	車 で 電話や口通えで そ の 他		6		3	
				9		1	
	突然おそう	家 に い た 通 行 中 そ の 他		1		7	
				3		5 1	
そ の 他			4				
原因動機	映画や雑誌に刺激されて 友だちとのワイ談や 友だちにそそのかされて シンナーやその他の薬 などを飲んで そ の 他			6	11		
				5	2		
				4	1		
				10	8		
生活態度	親 と 別 居 親 と 同 居	9	そのうち 下宿, 間借 5	3	そのうち 下宿, 間借 1		
親の関心	放任していた 異常な関心 普通		9	5			
			1				
			13	12			
非行歴	あ な り し		11 12	1 16			

このなかで注目されることは、複数犯罪は知りあいの人を襲う場合が多く、また単独犯罪では知らない人でしかも犯罪者よりも年下か年上に限られていることである。また、犯行場面を検討してみると、複数犯罪が車や電話などで相手をたくみに誘い出して犯行をなしているのに対し、単独犯罪では留守番をしている人とか、帰宅途中の通行人を突然襲うという形をとっている。このことは複数犯罪が一定程度共同的計画的犯行となるのに対して、単独犯罪は衝動的突発的行動として表われているようである。

次に原因や動機を検討してみると、複数犯罪が友だちや先輩のワイ談や自慢話に触発されたり、そそのかされたり、あるいは仲間同志でシンナーやその他の薬物を吸飲している間に、感情的に興奮して犯行に至る例が多い。逆に単独犯罪では、映画や雑誌などの鄙猥な性描写等にジメジメと侵されている姿がうかがえる。

次に複数犯罪は親と別居し、下宿や間借先において非行のもとをつくる例が多くみられる。この時期の心理的特性として独立したい気持ちのある反面、一人でいることの淋しさの側面が同居しているように見える。それが親と別居しその上親の子どもへの関心が薄らいでいくにつれ、いきおい友だちとの関連で次第に非行への溜り場と化していくように見える。

こうした非行へ走る子どもたちの心理的特性をより深く追求することは今回はできなかったが、これから必要なことではあろう。しかし筆者はこうした状況へ子どもたちが追いやられていく状況を極めて残念に思う。今子どもたちは自分の悩みや不安を、あるいは将来の進路さえも、教師や両親に話すよりも友だちに話す場合が多いという<sup>8)9)</sup>。このことは親と子、教師と生徒間に信頼できる、うちとけて話をする空気や機会がないということではないだろうか。親が子どもの友だちや持ち物や日常の動作等にもう少しでも関心を示し、何でも話し合える機会を作っていれば、犯罪までには発展しないですんだらと思う。また自分の意志からでなく社会的な関係から無理に親との別居を強いられている場合もあるが、こうした現状がより早く改善されていくように希望する。

いずれにしてもこうした青少年の性犯罪の背景に、マスコミによる劣悪・有害な性情報の氾濫等の社会的悪環境があり、それが直接間接に子どもたちの心を触れ、性に対する考え方を歪め、しかも犯罪者へと仕向けていることを大人は強く反省すべき時期に来ているように思える。

勝田らは社会自身が大量の非行を生み出す要因をもっていることは明かだし、今日ほど非教育的環境のなかに、子どもや青年がおかれている時代はない<sup>12)</sup>と述べているが、私どもは教育活動が社会的環境の改善や変革をも意図する必要があることをより深く認識していかなければならないだろう。

## II. (4)学校における性教育実践の実態について

### (イ) 性教育の担当者

図Ⅱに示すように小学校では養護教諭が74.6%と多く、このうち養護教諭のみで行なっている学

校は34.3%もあった。中学校でも養護教諭に頼る率は高く66.9%にのぼる。中学校・高校では教科担任による率が高くなっており、教科別にみると、中学校では保健体育 55.1% 家庭科 6.8% 理科 3.4% であり高校では保健体育 82.1% 生物 7.1% 家庭科 3.6% 保健 3.6% 倫理 3.6% となっている。しかし、保健体育科目で性教育を取り扱う率が高いとはいっても、身体の構造や機能の名称やその発達のしくみの一部として性生殖器官や内分泌の項目を扱うとかに中心があり、又さらに各分野で分散された形で教科書に記載されている現状なので、総合的に性教育單元として扱われてはいない。又中学校・高校は各科目の特質によって性教育になりうる内容をそれぞれ独自に取り扱うのが現状であるが、各分野の総合化と教科間の内容について各教師間の協力的調整と共通理解がなされていく必要がある。

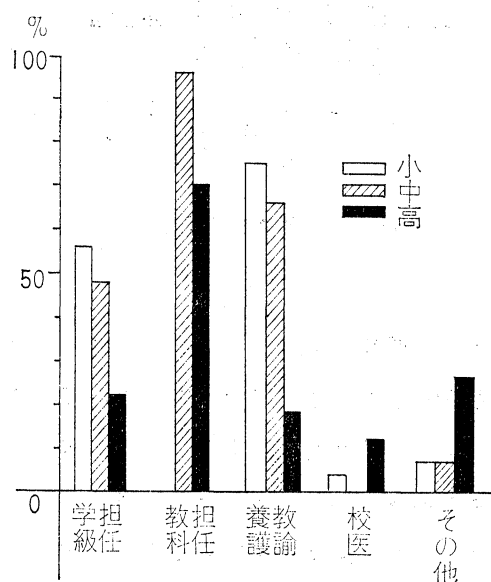


図-II 性教育担当者

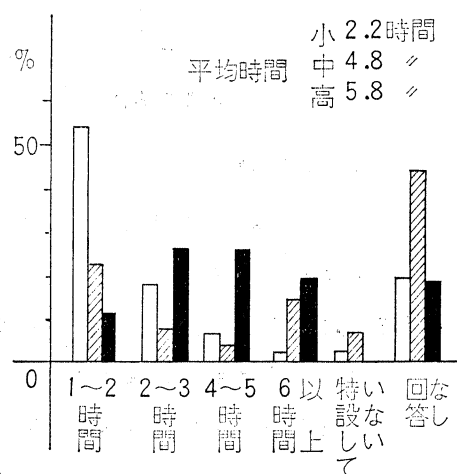


図-III 性教育実践年間時間

#### (ロ) 性教育実施時間

小学校では1時間が28.4%あり、そのうち10.4%は初潮指導のみを取り扱っている。中・高校では時間数も割合にも多くなっているが、上述したように実際的には性教育そのものを学習するというのではなく、関連のある内容を取り扱ったという意味の時間であるので、内容や指導の仕方によっては、興味づけだけに終る可能性が多い。

#### (ハ) 性教育の場面

小学校では学級指導や特別な時間及び個別指導のなかで行なわれる率が高いが、これは前にも述べたように養護教諭による初潮指導と、性に対する悩みや不安をもって保健室を訪れてくる児童に対する、養護教諭による健康相談的色彩の強いものが主となっている。

中学校・高校では教科の授業によるものが圧倒的に高い。

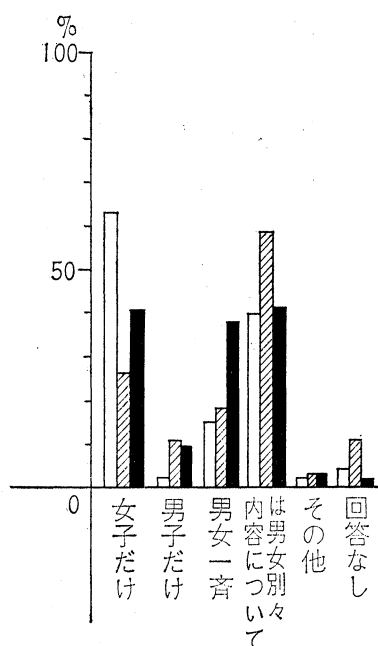


図-IV 性教育の場面

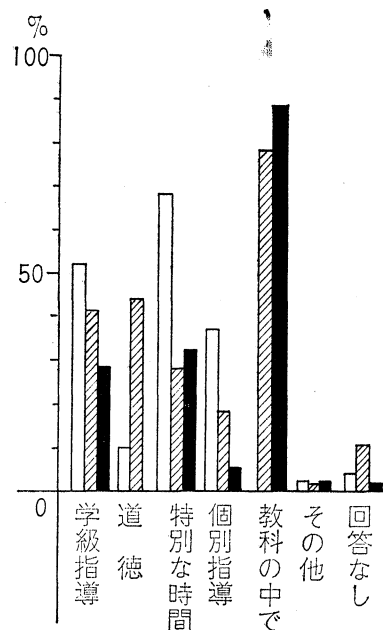


図-V 性教育の指導方法

## (二) 性教育の指導方法

「女子だけ」の指導は 小学校 62.6% 中学校 25.9% 高校 40.7% であり、また「内容については男女別」の率が高くなっている。即ち、性教育の中心はいまだに女子中心の指導であるという認識が高いことを示している。指導内容の程度によっては男女別々にすることも必要かと思うが、ともすれば男女別々に指導することがかえって異常な興味や関心を抱かせはしないだろうか。おたがいの身体的特性や性的役割や分担を知るためにもできるだけ男女一斉に指導する体制を整えるべきであろう。

次に使用している教材・教具については、小学校では「スライド併用」が74.6%と高く、その内容は、初潮指導のための副読本と併用されている。中学校・高校では「教科書」が中心で随時「その他の書物の併用」がこれに次いで多い。

## (ホ) 性教育として取り扱っている内容 (図-VI参照)

小学校においては「初潮指導」が圧倒的に多く 92.5%で、このうち「初潮指導」のみをあげている学校は17.9%もある。中学校においては「男女の役割と分担」77.7%「男女交際について」「男女のからだのしくみ」が共に 70.4%と高く、「初潮指導」は66.6%とやや小学校よりも少なめになっている。高校においては、小・中学校の学習をふまえて、より詳しく「男女のからだのしくみ」を取り扱うため、「受精」「第二次性徴」「思春期」「精通現象」などの性生理がいずれも88%以上を占めるようになり、次いで「性道徳」「結婚」「遺伝」などが続いている。

年間の性教育実施平均時間が小・中・高と次第に増加する傾向にあるので、とりあげられる内容

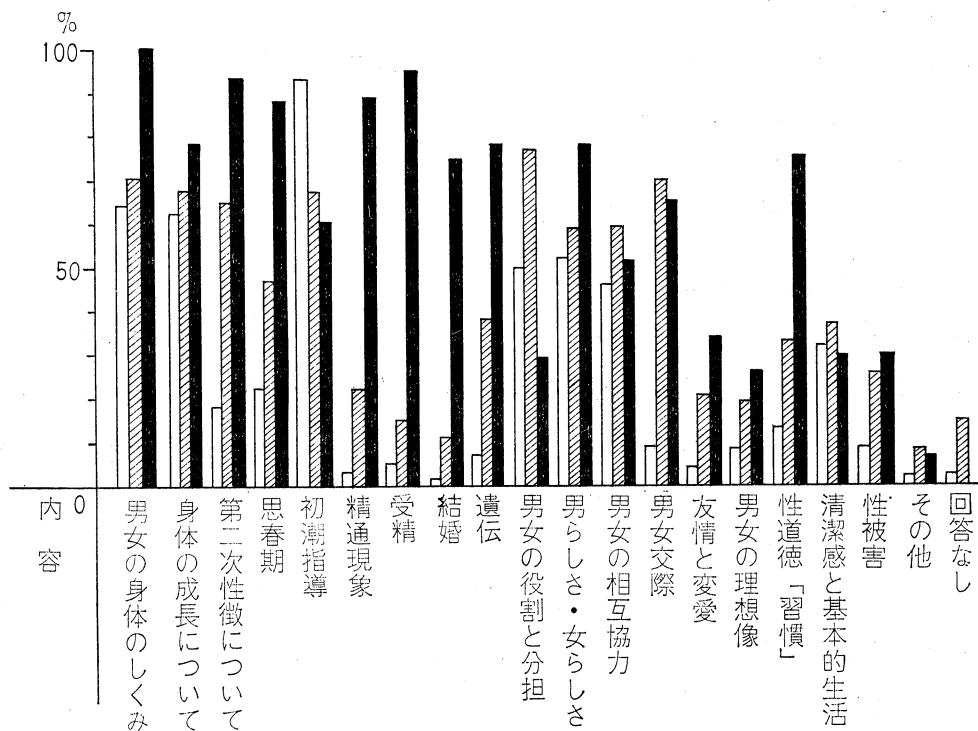


図-VI 性教育として取扱っている内容

も増加するのは当然ではあるが、時間的なものと内容からして、身体的側面の深化のみに重点があり、精神的社会的側面に関する内容が不足しているように思う<sup>10)11)</sup>ので、この面の内容の構成と拡大が必要となろう。

#### (へ) 性教育に関する学校独自の特別活動

学校全体の取り組みはきわめて少なく、小学校で3.0%、中学校で7.4%、高校で18.5%、となっている。特別活動の具体的な内容を次に列挙してみる。

##### 〔小学校〕

- ・山間部なので特に女兒の集団登下校に配慮。
- ・見なれぬ車のナンバーを覚えること。
- ・PTAなどの父兄の集会で、大人向けの性教育のスライドを使用し、父兄への学習の機会をもつ。子どもからの質問に対して家庭で素直な対話ができるように。
- ・母親には思春期前後の男児に対する知識がないため、質問によっては相当なショックを受ける場合が多いので、父親と息子との対話の機会を母親の働きかけで持つようにする。

##### 〔中学校〕

- ・全生徒に精神衛生、男女の役割 男女交際 性病等について スライドを視聴させる。
- ・女子全員に対し、入学当初に初潮指導を養護教諭で行なう。

##### 〔高 校〕

- ・校医、保健所長等の講話
- ・全体集会などを利用して、正しい男女交際についての指導
- ・3年生を対象に校医による衛生講話

## (Ⅱ) ④性教育に対する教師の意識の実態

### (イ) 学校における性教育の必要性について

必要を認める教師が圧倒的に多く、しかも小学校よりも中学校、高校と次第に高くなっている。

必要である理由は「性の氾濫、性の誘惑が多い」ため、予備的予防的知識が必要であると考えている教師が小学校で32.5%，中学校44.1%，高校63.8%となっている。次に特に思春期前後の身体的精神的特性として「性の悩み、不安解消のため」に正しい知識を与える必要があるという回答が多い。

必要でないという理由はきわめて少ないが、「本能的にわかる」「刺激をかえって与える」「個人差が大きく指導が困難」といった回答がある。性教育に対する考え方や目標をどのように設定するか、どのような教材をどのように構成し、どの程度教えればよいのか等が不明確な現状では、こうした指導者側の不安は常にあるものだと考える。

「学校は学習指導のみに専念すべきである」という回答が小中学校に4～6%みられるが、教育

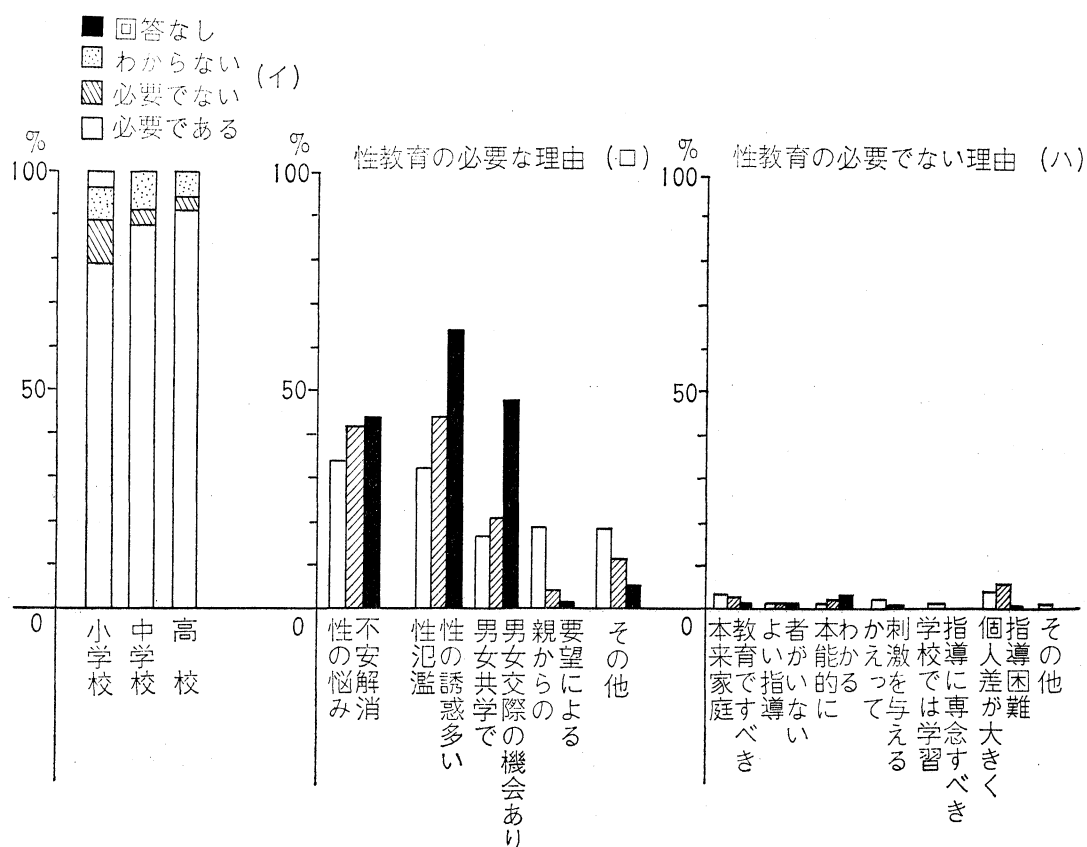


図-Ⅶ 学校における性教育の必要性について

の本来の目標は将来を生きる子どもたちに健全な人格を形成してもらうための配慮をほどこすことである。性教育もやはりそうした教育目標に充分答えなければならない使命があるはずだが、性生殖器の構造や機能の記憶中心の教育に対する批判なのか、知育偏重をさらに助長させるための意見なのか気になる回答である。

(ロ) 学校における性教育は誰れが指導すべきか。

小学校では実際に指導しているのは養護教諭が多かったが、ここでは逆に学級担任が指導すべきが76.7%と養護教諭の66.2%を上まわっている。又、中学校は教科担任の50%に対し、ここでも学級担任が70.5%と上位となっている。筆者もかねてから性教育を含めて本来保健指導や生活指導や健康管理の大部分は、常日頃から子どもたちに接触する機会の多い学級担任が、学級全体の子どもの動静をじっくり観察し、その常態との違いをすみやかに分析、検討して、それを適切な指導のもとに回復させていく過程こそ本来の姿であろうと考えている。しかし、その際にも、学校でのその方面の専門職である学校医や養護教諭あるいは他教諭との綿密な協力を得ながら実施されなければならないのは当然であるが、そうした学級担任への要請がこの回答にはあらわれているのではないだろうか。

(ハ) 性教育の場面はどこが適当か。

ここでも「学級担任」が「学級指導」のなかで行なうべきと回答したものが小・中学校では高く、高校では「教科」のなかで、より専門的に詳細に指導すべきであるという回答が多い。また、その他の意見の中に、「特に場面を決める必要はなく、学校教育全般で機会あるごとに指導すべきである」という意見もあった。学校が一致して性教育に取り組む姿勢をもち、そのための教師間の共通理解を深め、指導内容や指導方法を検討し、組織的活動を打ちたてていくことの必要性を強調していることは重要な尊重すべき意見であろう。

(ニ) 性教育の場としてどこが適当か。

この質問に対しては小・中・高校いずれも「学校・家庭・社会教育」で行なうべきであるという意見が圧倒的で、三者連携の組織的活動がなければ、学校教育だけでは効果は達成できないことがうかがえる。

(ホ) 学校において性教育を実施するとき予想される問題点、あるいは性教育に取り組むにあたって最大の障害は何か。

この質問に対する意見を大別すると、指導する側の問題、指導される側の問題、それらを取りまく環境の問題の三つに分けることができる。各々について主な意見を列挙してみる。

「指導する側の問題」

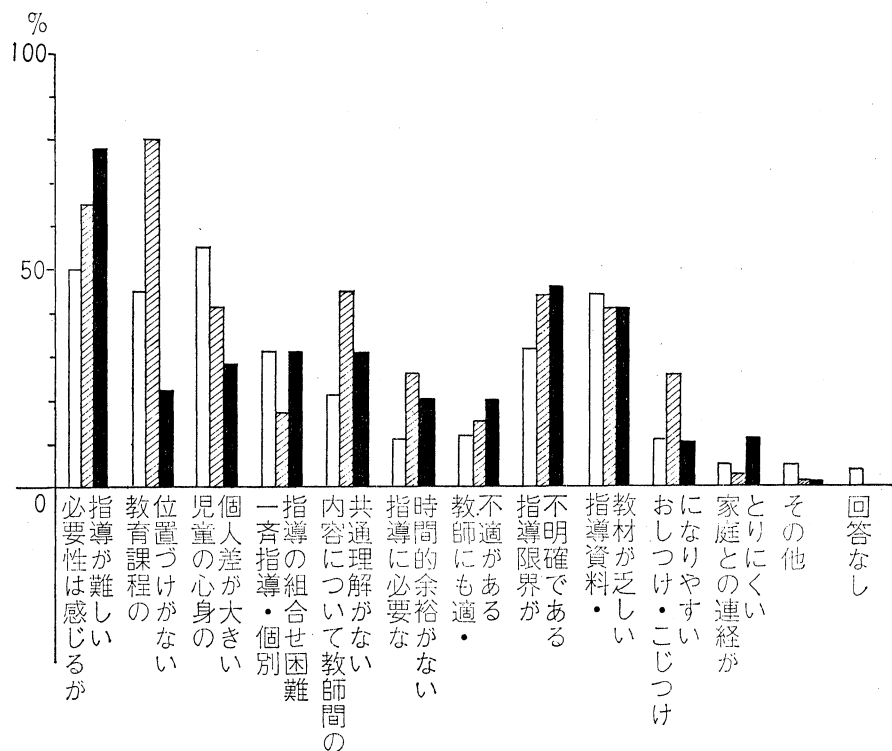


図-VIII 学校における性教育実施上予想される問題点

- ・学校の性教育に対する体制が整っていない。
- ・教師自身の性教育に対する意識や認識の違いや不足。
- ・指導経験の不足，指導計画がないため内容，時間，その限界がはっきりしない。
- ・適切な資料，教材に乏しい。
- ・指導の必要性は充分理解できるが，これ以上の時間的余裕がない。

#### 「指導される側の問題」

- ・児童生徒の身心の発達の個人差が大きい。
- ・性に対する興味や関心の違い。
- ・興味本位にしか受けとらない。

#### 「環境の問題」

- ・保護者の性教育に対する意識不足，無理解。
- ・生活環境や社会通念として性に対する卑猥性や嫌悪性の存在。
- ・マスコミ等による無責任な情報氾濫。

(へ) その障害をどのようにすれば克服できるか。

回答の量はきわめて少ないものであったが，貴重な意見が多いので，次に列举した。全体として，上述の実践する場合の障害点として挙げられた意見の反省が十分うかがえる。



## 「指導する側の問題」

- ・学校の性教育に対する体制や姿勢を確立し、学校に実践しようという全体的な雰囲気づくりを打ち立てること。
- ・教育課程のなかへ位置づけていくこと。特に性教育は総合科学的分野なので、教科をこえた研究と連携が要求される。
- ・教師に研修の機会がもっと与えられ、教師自身の学習を深めること。
- ・適切かつ典型的な指導資料や教材を考案していくこと。
- ・学校保健委員会などの組織的活動を活発化し、学習、指導、生活の一体化をはかること。
- ・県単位で「性教育に関する手引き」とか「副読本」などを作成し利用する。

## 「子ども側の問題」

- ・個人差に応じた学習指導をするための徹底かつ具体的な教材研究を必要とする。
- ・子どもは各家庭の生活に影響される。従って家庭の特に両親のあり方も問われなければならない。家庭と学校との連絡体制を整えることが必要とされる。
- ・定期および臨時の健康相談等で問題のおこりそうな児童の早期発見と指導が必要である。

## 「環境側の問題」

- ・テレビ、出版物などゆがんだ性情報にはきびしい検閲と規制が必要ではないか。
- ・今日の我が国の人生観（例えば金、レジャー、セックスのみが人生という考え）を変えていくこと。
- ・家庭、学校、地域社会の三者連携の充実をはかること。
- ・幼児期からの家庭における性教育ができるように母親の自覚をたかめること。

## ま と め

鹿児島県における青少年の性犯罪の現状と教育現場における性教育の実践状況ならびに教師の性教育の意識調査を実施した結果は、次のように要約されよう。

## I. 性犯罪の現状とその背景

- ①少年の性犯罪は年々増加の傾向にあり、しだいに年少化しつつある。又、女子少年の不純異性交遊も次第に増加している。
- ②青少年に社会的な環境が強く影響しており、特に性情報が青少年の心をかなり蝕んでいる。
- ③複数犯行は知っている人を車や電話でたくみにさそいだして犯行する傾向にあり、単独犯行は知らない人で年下か年上を突然襲う傾向がみられる。

## II. 性教育実践について

- ④性教育の指導者は、小学校では養護教諭が主で、特別に時間を設定しない保健指導や健康相談

的な指導と、学級指導の中で担任教師が保健指導の一部として取り扱っている。

中学校では教科担任と養護教諭、高校では教科担任特に保健体育教師が指導している。

㊤性教育を行なう時間は、小・中・高校ともきわめて少なく年平均2～5時間程度である。

㊦内容については小学校では初潮指導にほとんど限定され、かつ、ほとんど女子だけを対象とした指導が中心である。

㊧性教育に関係する学校全体の活動は、ほとんどなされていない。あったとしても初潮指導および講話が中心である。

### III. 教師の意識の実態について

㊨学校における性教育の必要性についてはほとんどの教師がその必要を認めている。必要である理由には、性情報の氾濫と性の誘惑が多いこと、また思春期前後の身体的精神的特性として性の悩みや不安を訴える子どもたちが多いこと等があげられ、それらの予備的予防的解消的性格として、正しい性の知識を教える必要のあることを強調している。

㊩しかし、必要性は認めてもそれを具体的に実践していく場合は、まだ多くの障害があることを訴えている。

教育は子どもたちの内的条件を十分触発させるような行為でなければならない。即ち教えるものと教えられるものが、共感を持ちあい協力して考え行動していくという姿勢を微力でも示すべきである。又、その内的条件に関わる外的条件、特に環境条件が極めて貧困、不充分である限りにおいては、外的条件をも同時に整備していく姿勢を社会全体がとり組んでいかなければならない時期にきていると考える。

### 参考文献および資料

#### ○参考文献

- 1) 末永・大永・西種子田・渡辺著 鹿児島県の2,3の地域における学童発育の考察その3 鹿児島大学体育科報告 第10号 p.15, 1975.
- 2) 鹿児島県学校保健研究協議会開催要項資料にもとづき著者作成
- 3) ロベール・ラプラヌ他著・石田春夫訳「思春期」白水社
- 4) 勝田・佐山・松田著「青年期」家庭の医学4 p.80 岩波書店 1975
- 5) 朝山新一著「性教育」p.114 中公新書 1974
- 6) 日本子どもを守る会編「子ども白書」p.139 草土文化 1976
- 7) 日本性教育協会調査編「青少年の性行動」p.18 小学館 1975
- 8) 田代三良著「高校生」p.120 岩波新書 1975
- 9) 藤原喜悦編「現代青年の意識と行動3」p.50 大日本図書 1975
- 10) 安井・黒川・石垣「高校保健教科書を総点検する」現代性教育研究 No.3, p.43～61 1972
- 11) 坂本裕美・指導西種子田「保健の教科書にあらわれた性教育の取り扱いの検討」鹿児島大学体育科卒業論文 1974
- 12) 勝田・佐山・松田 前掲書 p.75

#### ○参考資料

- 13) 「少年非行」鹿児島県警察本部保安部防犯少年課発行 昭和43年～昭和50年版